

コヌカグサ

Agrostis alba

イネ科

名前の由来

花穂につく小穂が細かくて糠に似ていることによる。花の色に由来すると思われる、レッドトップという名前で牧草として輸入された。漢字名：小糠草



コヌカグサ

形態的特徴

高さ60~100cm、根元の1ヵ所から多数の茎が伸びて（株立ち）立ち上がる。葉は細長く、長さ15cm、幅5mm程度。穂は淡緑色から淡紫色で細かく、茎上部で輪生状にのびる柄上に多数、密につき円錐花序になる。

類似種と見分け方：他のイネ科草本。

花の形体で見分けるため、開花時期以外での区別は困難。

コヌカグサの花の盛りは7月頃で、この時期に道端や草原、荒地などに群生し、草丈60~80cm程度で、赤紫色の細かい穂をつけているものは本種である可能性が高い。

生育環境・分布

牧草地で栽培されており、道端や野原、荒地などに広く野生化している。

分布：国外分布は、中北半球の温帯に広く分布する。タイプ産地はドイツ西部。

国内分布は、日本全土。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、牧草地で栽培されているほか、道端や草原、荒地などに広く野生化し、ごく普通に見られる。



コヌカグサの穂。赤紫で細かい

生活史

開花時期：6~8月。開花までの年数：不明。寿命：多年草。

他生物との関わり

カメムシ類の食草となっている。

興味深い話

■牧草として栽培される他、成長が早く、地下茎を広く張り巡らせる性質を利用して、道路法面などの表面侵食防止のために植えられる。

■花粉は花粉症の原因となっている。



コヌカグサの群落。穂の色で赤っぽく見える

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期			■									
結実期			■									

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989
「日本帰化植物写真図鑑」清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 全国農村教育協会 2001

「増補 日本イネ科植物図譜」長田武正 平凡社 1993
「新版 北海道の花(増補版)」鮫島惇一郎・辻井達一・梅沢俊 北海道大学図書刊行会 1993

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(鳥水辺)
類

(草原・樹林)
ワシ・タカ類